

## 講義要綱

【授業科目名】薬理学	【分野】基礎分野	【学年】3年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】大幡久之	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 疾病の認識を高めるために薬剤の特徴について学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 薬理学の知識を十分に理解し、臨床の場において留意できるようにする。			
【 授 業 内 容 】			
< 前 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 薬の作用と受容体</li> <li>3. 薬の歴史</li> <li>4. 麻薬と覚せい剤</li> <li>5. 受容体の機能と遮断薬</li> <li>6. 薬物の体内動態</li> <li>7. 薬物濃度のモニタリング</li> <li>8. 薬物の相互作用</li> <li>9. 薬物の有害作用</li> <li>10. 薬の適用</li> <li>11. 各論Ⅰ</li> <li>12. 各論Ⅱ</li> <li>13. 各論Ⅲ</li> <li>14. 各論Ⅳ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
【テキストなど】 テキスト: 系看 専門知識5「薬理学概論 第10版」 なお、必要に応じプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

## 講義要綱

【授業科目名】	栄養学	【分野】	基礎分野	【学年】	3年	【学期】	前期
【学科】	柔道整復科	【講師名】	鈴木ルミ子	【授業コマ数】	15	【授業時間数】	30
【単位数】	2						
【一般目標:GIO】 治療効果を高め、また患者の生活指導に役立つ栄養学について学ぶ。							
【行動目標・到達目標:SBO】 栄養学の知識を持ち患者の生活指導に役立てるようになる。							
【 授 業 計 画 】							
<前期>				<後期>			
1: 栄養学基礎 2: 五大栄養学と各食品の特徴① 3: 五大栄養学と各食品の特徴② 4: 五大栄養学と各食品の特徴③ 5: 五大栄養学と各食品の特徴④ 6: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 7: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 8: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 9: 食生活の設計・食事摂取基準と食品摂取の目安・栄養価計算 10: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 11: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 12: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 13: 成長段階や各種目標に応じた食事内容(各疾患、スポーツ選手、妊娠など) 14: 栄養学まとめ 15: 試験問題解説							
【テキスト】 「栄養の教科書」 新星出版社							
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。							
【授業実施上の留意点】 特になし							

## 講義要綱

【授業科目名】運動学	【分野】専門基礎分野	【学年】3年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】前田信吾	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 身体の運動に関わる関節等の構造・機能・理論を力学を含め学習し、動作を理解する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 ・力学・解剖学・生理学等を応用し、運動学の基礎を理解し説明できる。 ・身体各部位の運動学的機能から動作を理解することができる。 ・疾患と関連して考えることができる。			
【 授 業 内 容 】			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動学ガイダンス(運動学とは、運動の表し方、身体運動と力学)</li> <li>2. 運動器の構造と機能</li> <li>3. 神経の構造と機能、運動感覚</li> <li>4. 反射と随意運動</li> <li>5. 上肢帯の運動、肩関節の運動、肘関節と前腕の運動</li> <li>6. 手関節と手の運動</li> <li>7. 股関節の運動、膝関節の運動</li> <li>8. 足関節と足部の運動、体幹と脊柱の運動</li> <li>9. 頸椎の運動、胸椎と胸郭の運動</li> <li>10. 腰椎、仙椎および骨盤の運動、顔面および頭部の運動</li> <li>11. 姿勢</li> <li>12. 歩行</li> <li>13. 運動発達</li> <li>14. 運動学習</li> <li>15. 総復習</li> </ol>			
【テキストなど】 テキスト:「運動学」改定第3版 その他: 必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 なし			

## 講義要綱

【授業科目名】一般臨床医学Ⅱ	【分野】専門基礎分野	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】田中伸幸	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 臨床で遭遇する疾患の基本原理を理解し、適切な検査・鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、医学的知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 実際の臨床の場において患者の訴えを的確に聴取することができるように理解を深める。 実際の施術の場において身体の全身、局所の正しい観察ができるように検査も含め知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 消化器疾患①	1. 腎・尿路疾患①	2. 腎・尿路疾患②	2. 腎・尿路疾患②
2. 消化器疾患②	3. 腎・尿路疾患③	3. 腎・尿路疾患③	3. 腎・尿路疾患③
3. 消化器疾患③	4. 腎・尿路疾患④	4. 腎・尿路疾患④	4. 腎・尿路疾患④
4. 消化器疾患④	5. 神経疾患①	5. 神経疾患①	5. 神経疾患①
5. 代謝性疾患①	6. 神経疾患②	6. 神経疾患②	6. 神経疾患②
6. 代謝性疾患②	7. 神経疾患③	7. 神経疾患③	7. 神経疾患③
7. 代謝性疾患③	8. 神経疾患④	8. 神経疾患④	8. 神経疾患④
8. 内分泌疾患①	9. 感染症	9. 感染症	9. 感染症
9. 内分泌疾患②	10. リウマチ①	10. リウマチ①	10. リウマチ①
10. 内分泌疾患③	11. 膠原病①	11. 膠原病①	11. 膠原病①
11. 内分泌疾患④	12. 膠原病②	12. 膠原病②	12. 膠原病②
12. 血液・造血器疾患①	13. 膠原病③	13. 膠原病③	13. 膠原病③
13. 血液・造血器疾患②	14. 膠原病④	14. 膠原病④	14. 膠原病④
14. 血液・造血器疾患③	15. まとめ	15. まとめ	15. まとめ
15. まとめ			
【テキスト】 テキスト:「一般臨床医学」 使用教材:配布プリント、血圧計、聴診器、打診槌、爪楊枝、筆、音叉、ペンライト			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。 国試対策も同時に行う。			

## 講義要綱

<b>【授業科目名】</b> 整形外科学Ⅱ	<b>【分野】</b> 専門基礎分野	<b>【学年】</b> 3年	<b>【学期】</b> 後期
<b>【学科】</b> 柔道整復科	<b>【講師名】</b> 木田将量	<b>【授業コマ数】</b> 15	<b>【授業時間数】</b> 30 <b>【単位数】</b> 1
<b>【一般目標:GIO】</b> 臨床で遭遇する整形外科疾患の基本を理解し、適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、医学的知識ならびに技能について習得する。			
<b>【行動目標・到達目標:SBOs】</b> 実際の臨床の場において患者の訴えを的確に聴取することができるように理解を深める。 実際の臨床の場において業務範囲内外の鑑別が正しくできるように検査も含め知識を深める。			
<b>【 教 育 内 容 】</b>			
< 前 期 >		< 後 期 >	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整形外科学とは</li> <li>2. 身体部位別各論</li> <li>3. 身体部位別各論</li> <li>4. 身体部位別各論</li> <li>5. 身体部位別各論</li> <li>6. 身体部位別各論</li> <li>7. 身体部位別各論</li> <li>8. 身体部位別各論</li> <li>9. 身体部位別各論</li> <li>10. 身体部位別各論</li> <li>11. 身体部位別各論</li> <li>12. 身体部位別各論</li> <li>13. 身体部位別各論</li> <li>14. 身体部位別各論</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習習熟度の確認</li> <li>2. 運動器の基礎知識復習</li> <li>3. 整形外科診察法復習</li> <li>4. 整形外科検査法復習</li> <li>5. 整形外科的治療法復習</li> <li>6. 骨・関節損傷総論復習</li> <li>7. スポーツ整形外科概論復習</li> <li>8. リハビリテーション総論復習</li> <li>9. 疾患別各論復習①</li> <li>10. 疾患別各論復習②</li> <li>11. 疾患別各論復習③</li> <li>12. 身体部位別各論復習①</li> <li>13. 身体部位別各論復習②</li> <li>14. 身体部位別各論復習③</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
<b>【テキスト】</b> テキスト:「整形外科学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
<b>【成績評価方法】</b> 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
<b>【授業実施上の留意点】</b> 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

## 講義要綱

【授業科目名】リハビリテーション医学	【分野】専門基礎分野	【学年】3年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】望月直哉	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
<b>【一般目標:GIO】</b> リハビリテーション医学や障害の概念、多様な障害の評価と、それに対応した治療法や理論を学び、更に適応となる主な疾患を通して詳しい知識を深め、実際の臨床に役立てることを目的とする。			
<b>【行動目標・到達目標:SBOs】</b> ・障害を適切に評価することができる。 ・障害やその評価に応じた施術・訓練ができる。 ・臨床で遭遇することが多い疾患に対し、応用し実践することができる。			
<b>【 授 業 内 容 】</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの概要</li> <li>2. 医学的リハビリテーションの概要</li> <li>3. 障害の評価①</li> <li>4. 障害の評価②</li> <li>5. 医学的リハビリテーションの実際①</li> <li>6. 医学的リハビリテーションの実際②</li> <li>7. 脳卒中のリハビリテーション</li> <li>8. 脊髄損傷のリハビリテーション</li> <li>9. 切断のリハビリテーション</li> <li>10. 脳性麻痺のリハビリテーション</li> <li>11. 慢性閉塞性肺疾患および心疾患のリハビリテーション</li> <li>12. 整形外科疾患のリハビリテーション①</li> <li>13. 整形外科疾患のリハビリテーション②</li> <li>14. 高齢者を対象としたリハビリテーション</li> <li>15. 総復習</li> </ol>			
<b>【テキストなど】</b> テキスト:「リハビリテーション医学」 ほかに、必要に応じてプリントを使用する。			
<b>【成績評価方法】</b> 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行なう。			
<b>【授業実施上の留意点】</b> なし			

## 講義要綱

【授業科目名】関係法規	【分野】専門基礎分野	【学年】3年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】片桐秀樹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【一般目標:GIO】 柔道整復師に関する法律について学ぶ。 その他医療、社会保険、社会福祉に関する法律を学ぶ。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師としての資格の意義を学ぶ。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論 法とは何か</li> <li>2. 柔道整復師等に関する法律 法制度の沿革</li> <li>3. 法制定の目的</li> <li>4. 免許と試験</li> <li>5. 業務</li> <li>6. 学校、養成施設、指定試験(登録)機関、審議会及び試験委員、</li> <li>7. 罰則</li> <li>8. 関係法規 医事法規と医療制度</li> <li>9. 医療法、医師法</li> <li>10. その他の医療従事者に関する法律</li> <li>11. 薬事法規</li> <li>12. 衛生関係法規</li> <li>13. 社会福祉関係法規</li> <li>14. 社会保険関係法規</li> <li>15. 総復習</li> </ol>			
【テキスト】 テキスト:「関係法規」 授業内の配布資料			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 授業は講義形式にて行う。教科書、プリントの通読を基本とする。 法律の基本的な考え方から柔道整復師に関する法律をはじめ医療に関係した法律までを学ぶので授業内で必要な知識を吸収するつもりで臨むこと。医療制度などについては日常でのニュースへの関心も求めたい。			

## 講義要綱

【授業科目名】衛生学・公衆衛生学		【分野】専門基礎分野		【学年】3年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】千葉百子	【授業コマ数】15	【授業時間数】30	【単位数】1	
【一般目標:GIO】 衛生学とは、生命を衛(まもる)学問であり、病気の予防や健康増進の知識と技術、これらが展開される保健福祉の法制・倫理を理解する事を目的とする。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 衛生学の意義を知り、人々の健康を保つために地域、学校、職域、母子、成人・高齢者など各集団を対象に疾病の概要、予防について知る。 現代社会を取り巻く環境を捉え生態系にもたらす影響を理解する。 保健統計により集団の健康問題を把握し、これからの時代の保健行動の方向性を学ぶ。					
【 教 育 内 容 】					
1. 衛生学と環境医学 衛生学・公衆衛生学の歴史 環境医学	8. 成人保健 成人保健	2. 疫学 疫学とは 疫学調査の手法と統計	9. ライフスタイルと食品環境 水の衛生・衣服、住居、食品の人体影響 食品衛生とは	3. 感染症と対策 感染症とは 感染症の予防対策	10. 産業保健 労働災害の対策 職場における健康診断と健康増進
4. 医療現場の消毒 消毒の概念 消毒の種類と方法	11. 精神保健 精神保健 精神保健活動と原則	5. 母子保健 母子保健 母子健康行政	12. 老人保健 老人保健	6. 環境保健 環境問題 公害の対策	13. 衛生行政と保健医療制度 衛生行政機構の概要 国民医療費
7. 学校保健 学校保健 保健教育	14. 地域保健と国際保健 地域保健・地域保健活動とは 国際保健協力と世界保健機構	15. まとめ テスト講評			
【テキスト】 テキスト:「衛生学・公衆衛生学」 使用教材:配布プリント					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。					



## 講義要綱

【授業科目名】臨床柔道整復学Ⅵ		【分野】専門分野		【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】片桐秀樹 片桐陽	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2	
【一般目標:GIO】 柔道整復学の臨床を理解し、上肢・下肢の骨折に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握できるよう、知識ならびに技能について習得する。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。					
【 教 育 内 容 】					
＜ 前 期 ＞			＜ 後 期 ＞		
1. 鎖骨骨折の臨床における諸問題 2. 鎖骨骨折の臨床における諸問題 3. 上腕骨外科頸骨折の臨床における諸問題 4. 上腕骨外科頸骨折の臨床における諸問題 5. 上肢の骨折・固定法の復習 6. 上肢の脱臼・固定法の復習 7. 橈骨遠位端部骨折の臨床における諸問題 8. 橈骨遠位端部骨折の臨床における諸問題 9. 肩鎖関節脱臼の臨床における諸問題 10. 肩鎖関節脱臼の臨床における諸問題 11. 肩関節脱臼の臨床における諸問題 12. 肩関節脱臼の臨床における諸問題 13. 肘関節脱臼の臨床における諸問題 14. 肘関節脱臼の臨床における諸問題 15. まとめ			1. 臨床における画像検査法 2. 臨床における画像検査法 3. 臨床における画像検査法 4. 臨床における画像検査法 5. 舟状骨骨折の臨床における諸問題 6. 舟状骨骨折の臨床における諸問題 7. 中手骨骨折の臨床における諸問題 8. 大腿骨頸部骨折の臨床における諸問題 9. 大腿骨頸部骨折の臨床における諸問題 10. 中手骨骨折の臨床における諸問題 11. 足部の軟部組織損傷臨床 12. 膝部の軟部組織損傷臨床 13. 大腿部の軟部組織損傷臨床 14. 下腿部の軟部組織損傷臨床 15. まとめ		
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。					

## 講義要綱

【授業科目名】臨床柔道整復学Ⅶ	【分野】専門分野	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】橘和豊	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】			
① 柔道整復学の臨床を理解し、下肢・体幹の外傷に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握し処置できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
② 国家試験合格を確実にする柔道整復学の基礎知識を獲得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】			
① 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲内外の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。			
② 骨折、脱臼、軟部組織損傷の鑑別をする上での基礎知識を獲得する。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 国家試験の基本情報の確認	1. 体幹部外傷の臨床における諸問題について	2. 国家試験の基本情報の確認	2. 体幹部外傷の臨床における諸問題について
3. 柔道整復学理論総復習	3. 体幹部外傷の臨床における諸問題について	4. 柔道整復学理論総復習	4. 体幹部外傷の臨床における諸問題について
4. 柔道整復学理論総復習	4. 体幹部外傷の臨床における諸問題について	5. 柔道整復学理論総復習	5. 下肢の検査法
5. 柔道整復学理論総復習	5. 下肢の検査法	6. 柔道整復学理論総復習	6. 下肢の検査法
6. 柔道整復学理論総復習	6. 下肢の検査法	7. 柔道整復学理論総復習	7. 下肢の検査法
7. 柔道整復学理論総復習	7. 下肢の検査法	8. 柔道整復学理論総復習	8. 下肢の検査法
8. 柔道整復学理論総復習	8. 下肢の検査法	9. 柔道整復学理論総復習	9. 上肢の検査法
9. 柔道整復学理論総復習	9. 上肢の検査法	10. 柔道整復学理論総復習	10. 上肢の検査法
10. 柔道整復学理論総復習	10. 上肢の検査法	11. 柔道整復学理論総復習	11. 上肢の検査法
11. 柔道整復学理論総復習	11. 上肢の検査法	12. 柔道整復学理論総復習	12. 軟部組織損傷の総復習
12. 柔道整復学理論総復習	12. 軟部組織損傷の総復習	13. 柔道整復学理論総復習	13. 軟部組織損傷の総復習
13. 柔道整復学理論総復習	13. 軟部組織損傷の総復習	14. 柔道整復学理論総復習	14. 軟部組織損傷の総復習
14. 柔道整復学理論総復習	14. 軟部組織損傷の総復習	15. まとめ	15. まとめ
15. まとめ	15. まとめ		
【テキスト】			
テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】			
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】			
教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

## 講 義 要 綱

<b>【授業科目名】</b> 臨床柔道整復学Ⅷ	<b>【分野】</b> 専門分野	<b>【学年】</b> 3年	<b>【学期】</b> 前・後期
<b>【学科】</b> 柔道整復科	<b>【講師名】</b> 伊藤浩二	<b>【授業コマ数】</b> 30	<b>【授業時間数】</b> 60 <b>【単位数】</b> 2
<b>【一般目標:GIO】</b>			
① 柔道整復学の臨床を理解し、業務範囲内の外傷に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握し処置できるよう、知識ならびに技能について習得する。 ② 柔道整復学における骨の構造と筋の構造の知識を深く習得する。			
<b>【行動目標・到達目標:SBOs】</b>			
① 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲の鑑別が正しくできるように検査法も含め知識を深め、活用する。 ② 骨の構造と名称、筋の構造と筋の起始、停止を理解する。			
<b>【 教 育 内 容 】</b>			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 柔道整復術の臨床;頭部の骨と筋 2. 柔道整復術の臨床;頭部の骨と筋 3. 柔道整復術の臨床;胸部の骨と筋 4. 柔道整復術の臨床;胸部の骨と筋 5. 柔道整復術の臨床;脊椎の骨と筋 6. 柔道整復術の臨床;脊椎の骨と筋 7. 柔道整復術の臨床;上肢の骨と筋 8. 柔道整復術の臨床;上肢の骨と筋 9. 柔道整復術の臨床;上肢の骨と筋 10. 柔道整復術の臨床;上肢の骨と筋 11. 柔道整復術の臨床;下肢の骨と筋 12. 柔道整復術の臨床;下肢の骨と筋 13. 柔道整復術の臨床;下肢の骨と筋 14. 柔道整復術の臨床;下肢の骨と筋 15. まとめ	1. 柔道整復学における解剖と生理について 2. 柔道整復学における解剖と生理について 3. 柔道整復学における解剖と生理について 4. 柔道整復学における解剖と生理について 5. 柔道整復学における解剖と生理について 6. 柔道整復学における解剖と生理について 7. 柔道整復学における解剖と生理について 8. 柔道整復学における解剖と生理について 9. 柔道整復学における解剖と生理について 10. 柔道整復術の臨床;指導管理 11. 柔道整復術の臨床;指導管理 12. 柔道整復術の臨床;事務 13. 柔道整復術の臨床;院内管理 14. 柔道整復術の臨床;相互協力体制 15. まとめ		
<b>【テキスト】</b>			
テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
<b>【成績評価方法】</b>			
所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
<b>【授業実施上の留意点】</b>			
教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

## 講 義 要 綱

【授業科目名】臨床柔道整復学Ⅸ	【分野】専門分野	【学年】3年	【学期】後期
【学科】柔道整復科	【講師名】片桐秀樹	【授業コマ数】15	【授業時間数】30
【単位数】1			
【一般目標:GIO】 柔道整復学の臨床を理解し、業務範囲内の外傷に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握し処置できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 柔道整復師の本分たる「骨つぎ」を理論から学習し、「骨を接げる」技術を基礎から修得する。実際の臨床の場において業務範囲の鑑別が正しくできるように検査法も含め基礎知識を深める。			
【 教 育 内 容 】			
< 後 期 >			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療面接</li> <li>2. 評価の手順</li> <li>3. 身体評価①(姿勢・体形・顔貌)</li> <li>4. 身体評価②(歩容)</li> <li>5. 身体評価③(皮膚の色調・発疹)</li> <li>6. 身体評価④(脊柱や四肢の変形)</li> <li>7. 身体評価④(神経学的評価、腱反射)</li> <li>8. 生命徴候の評価①(血圧・脈拍)</li> <li>9. 生命徴候の評価②(体温・意識障害)</li> <li>10. 動的な評価(徒手筋力検査)</li> <li>11. 柔道整復学における筋疾患</li> <li>12. 柔道整復学における神経疾患</li> <li>13. 柔道整復学における感染症</li> <li>14. 柔道整復学における代謝性疾患</li> <li>15. まとめ</li> </ol>			
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、学期末の筆記試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

## 講義要綱

【授業科目名】柔道整復実技Ⅳ		【分野】専門分野	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】橘和豊 片桐陽	【授業コマ数】30	【授業時間数】60	【単位数】2
【一般目標:GIO】 柔道整復学を十分に理解し、業務範囲内の疾患に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握し、処置できるよう、知識ならびに技能について習得する。				
【行動目標・到達目標:SBOs】 上肢の骨折・脱臼に対し、正しく評価を行い、整復法・固定法を臨床に用いることができる。 認定実技審査・国家試験に向けて、実技・理論の復習を行い、知識と技能を強固なものにする。				
【 教 育 内 容 】				
＜ 前 期 ＞橘		＜ 後 期 ＞片桐陽		
1. 鎖骨骨折の整復 2. 上腕骨外科頸骨折の整復 3. 橈骨遠位端部骨折の整復 4. 肩鎖関節脱臼の整復 5. 肩関節脱臼の整復 6. 肘関節脱臼の整復 7. 鎖骨骨折の固定 8. 上腕骨外科頸骨折の固定 9. 橈骨遠位端部骨折の固定 10. 肩鎖関節脱臼の固定 11. 肩関節脱臼の固定 12. 肘関節脱臼の固定 13. 上肢の基本包帯法 14. 実技試験と練習 15. まとめ		1. 認定実技審査対策・骨折の部 2. 認定実技審査対策・脱臼の部 3. 認定実技審査対策・軟損の部 4. 認定実技審査対策・包帯の部 5. 認定実技審査対策・骨折の部 6. 認定実技審査対策・脱臼の部 7. 認定実技審査対策・軟損の部 8. 認定実技審査対策・包帯の部 9. 運動の面と軸、運動の法則 10. 筋の作用と神経、反射 11. 姿勢と重心、歩行と筋 12. 関節可動域測定 13. 装具 14. 実技試験と練習 15. 疾患別のリハビリテーション		
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。				
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験において評価を行う。				
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。				

## 講義要綱

【授業科目名】柔道整復実技Ⅴ	【分野】専門分野	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】片桐陽 中島嘉和 片桐秀樹	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【一般目標:GIO】 柔道整復学を全体的に理解し、その知識ならびに技能を修得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 ① 上肢の脱臼に対し、正しく評価を行い、整復法・固定法を臨床に用いることができる。 認定実技審査・国家試験に向けて、実技・理論の復習を行い、知識と技能を強固なものにする。 ② 柔道整復師の資格の意義を学ぶ。 ③ 柔道整復師として、その起源を十分に理解し、柔道整復師としての礼儀作法を身に付ける。 認定実技審査に向け、柔道の基本を復習する。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 柔道整復師の業務範囲	1. 実技審査対策	2. 実技審査対策	2. 実技審査対策
2. 柔道整復師の業務	3. 実技審査対策	3. 実技審査対策	3. 実技審査対策
3. 柔道整復師の免許	4. 実技審査対策	4. 実技審査対策	4. 実技審査対策
4. 柔道;礼法、受け身	5. 実技審査対策	5. 実技審査対策	5. 実技審査対策
5. 施術所について	6. 上肢の脱臼臨床①	6. 上肢の脱臼臨床②	6. 上肢の脱臼臨床③
6. 柔道整復師法	7. 上肢の脱臼臨床③	7. 上肢の脱臼臨床④	7. 上肢の脱臼臨床④
7. 柔道;礼法、受け身	8. 柔道整復学総復習	8. 柔道整復学総復習	8. 柔道整復学総復習
8. 医師法および医療法	9. 柔道整復学総復習	9. 柔道整復学総復習	9. 柔道整復学総復習
9. 肩関節脱臼の固定法	10. 柔道整復学総復習	10. 柔道整復学総復習	10. 柔道整復学総復習
10. 柔道;投げの形(腰技)	11. 試験と練習	11. 柔道整復学総復習	11. 柔道整復学総復習
11. 肘関節脱臼の固定法	12. 試験と練習	12. 柔道整復学総復習	12. 柔道整復学総復習
12. 柔道;投げの形(腰技)	13. 試験と練習	13. 柔道整復学総復習	13. 柔道整復学総復習
13. 肩鎖関節脱臼の固定法	14. 試験と練習	14. 試験と練習	14. 試験と練習
14. 実技試験と練習	15. 柔道整復学総復習	15. 柔道整復学総復習	15. 柔道整復学総復習
15. まとめ			
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

## 講義要綱

<b>【授業科目名】</b> 柔道整復実技VI	<b>【分野】</b> 専門分野	<b>【学年】</b> 3年	<b>【学期】</b> 後期
<b>【学科】</b> 柔道整復科	<b>【講師名】</b> 橘和豊 難波英村	<b>【授業コマ数】</b> 15	<b>【授業時間数】</b> 30 <b>【単位数】</b> 1
<b>【一般目標:GIO】</b> 柔道整復学を十分に理解し、業務範囲内の疾患に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握し、処置できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
<b>【行動目標・到達目標:SBOs】</b> ① 日常生活で多く遭遇する軟部組織損傷について、臨床に即した技能を習得する。 ② 柔道整復師が鑑別すべき疾患について知識を深める。			
<b>【 教 育 内 容 】</b>			
< 後 期 >			
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 足関節から膝関節の包帯法</li> <li>2. 手関節から肘関節までの包帯法</li> <li>3. 肘関節から肩関節までの包帯法</li> <li>4. デゾー包帯固定法</li> <li>5. ヴェルポー包帯固定法</li> <li>6. ジュール包帯固定法</li> <li>7. 上肢・下肢の軟部組織損傷の検査法</li> <li>8. 上肢・下肢の軟部組織損傷の検査法</li> <li>9. 上肢・下肢の軟部組織損傷の検査法</li> <li>10. 柔道整復学における創傷の治癒と循環障害</li> <li>11. 柔道整復学における炎症症状</li> <li>12. 柔道整復学におけるアレルギー疾患</li> <li>13. 柔道整復学における腫瘍について</li> <li>14. 試験と練習</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
<b>【テキスト】</b> テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
<b>【成績評価方法】</b> 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験において評価を行う。			
<b>【授業実施上の留意点】</b> 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

## 講義要綱

【授業科目名】柔道整復実技Ⅶ	【分野】専門分野	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】橘和豊	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】 柔道整復学を十分に理解し、業務範囲内の疾患に対し適切な検査、鑑別を行い、正しく病態を把握し、処置できるよう、知識ならびに技能について習得する。			
【行動目標・到達目標:SBOs】 ① 上肢の骨折について、臨床に即した技能を習得する。 ② 柔道整復師が鑑別すべき骨疾患について知識を習得する。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 柔道整復学総復習	1. 筋の総復習	1. 筋の総復習	1. 筋の総復習
2. 柔道整復学総復習	2. 筋の総復習	2. 筋の総復習	2. 筋の総復習
3. 骨の総復習	3. 筋の総復習	3. 筋の総復習	3. 筋の総復習
4. 骨の総復習	4. 筋の総復習	4. 筋の総復習	4. 筋の総復習
5. 骨の総復習	5. 上肢の骨折臨床③	5. 上肢の骨折臨床③	5. 上肢の骨折臨床③
6. 骨の総復習	6. 上肢の骨折臨床④	6. 上肢の骨折臨床④	6. 上肢の骨折臨床④
7. 骨の総復習	7. 上肢の骨折臨床⑤	7. 上肢の骨折臨床⑤	7. 上肢の骨折臨床⑤
8. 骨の総復習	8. 上肢の骨折臨床⑥	8. 上肢の骨折臨床⑥	8. 上肢の骨折臨床⑥
9. 上肢の骨折臨床①	9. 柔道整復学における骨系統疾患①	9. 柔道整復学における骨系統疾患①	9. 柔道整復学における骨系統疾患①
10. 上肢の骨折臨床②	10. 柔道整復学における骨系統疾患②	10. 柔道整復学における骨系統疾患②	10. 柔道整復学における骨系統疾患②
	11. 柔道整復学における骨系統疾患③	11. 柔道整復学における骨系統疾患③	11. 柔道整復学における骨系統疾患③
	12. 柔道整復学における骨系統疾患④	12. 柔道整復学における骨系統疾患④	12. 柔道整復学における骨系統疾患④
	13. 上肢の脱臼臨床①	13. 上肢の脱臼臨床①	13. 上肢の脱臼臨床①
	14. 上肢の脱臼臨床②	14. 上肢の脱臼臨床②	14. 上肢の脱臼臨床②
	15. 上肢の脱臼臨床③	15. 上肢の脱臼臨床③	15. 上肢の脱臼臨床③
	16. 上肢の脱臼臨床④	16. 上肢の脱臼臨床④	16. 上肢の脱臼臨床④
	17. 上肢の軟部組織損傷の臨床①	17. 上肢の軟部組織損傷の臨床①	17. 上肢の軟部組織損傷の臨床①
	18. 上肢の軟部組織損傷の臨床②	18. 上肢の軟部組織損傷の臨床②	18. 上肢の軟部組織損傷の臨床②
	19. 上肢の軟部組織損傷の臨床③	19. 上肢の軟部組織損傷の臨床③	19. 上肢の軟部組織損傷の臨床③
	20. まとめ	20. まとめ	20. まとめ
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			



## 講義要綱

【授業科目名】柔道整復実技Ⅷ	【分野】専門分野	【学年】3年	【学期】前・後期
【学科】柔道整復科	【講師名】橘和豊	【授業コマ数】30	【授業時間数】60
【単位数】2			
【一般目標:GIO】			
① インフォームドコンセントや症例発表において、症状や経過を正しく第三者に伝えることができる。 ② 国家試験合格を確実にする知識を獲得する。 ・過去の出題傾向から各科目ごとの重点学習ポイントを整理する。 ・自らの弱点を各科目ごとに把握し、効率の良い学習を進めていく下地を作る。 ・特に出題数の多い科目について得点率をアップさせる。			
【行動目標・到達目標:SBOs】			
① 観察を通じ様々な情報を収集統合し、正確な評価を下し、それを第三者に説明することができる。 ② マークシートを正確に作成することができる。出題者の意図を的確に掴み、問題の求める解答をスピーディーに導くことができる。試験における得点力をアップを目指す。			
【 教 育 内 容 】			
< 前 期 >		< 後 期 >	
1. 柔道整復学総復習	1. 評価法①(計測評価)	2. 柔道整復学総復習	2. 評価法②(計測評価)
2. 柔道整復学総復習	3. 評価法③(動的評価)	3. 画像診断総復習	3. 評価法④(動的評価)
3. 画像診断総復習	4. 評価法④(動的評価)	4. 画像診断総復習	4. 評価法④(動的評価)
4. 画像診断総復習	5. 施術所と消毒について	5. 画像診断総復習	5. 施術所と消毒について
5. 画像診断総復習	6. インフォームドコンセント	6. 画像診断総復習	6. インフォームドコンセント
6. 画像診断総復習	7. 医療面接	7. 骨と筋と神経の総復習	7. 医療面接
7. 骨と筋と神経の総復習	8. 指導管理①(日常生活動作の指導)	8. 骨と筋と神経の総復習	8. 指導管理①(日常生活動作の指導)
8. 骨と筋と神経の総復習	9. 指導管理②(整復に対する指導)	9. 骨と筋と神経の総復習	9. 指導管理②(整復に対する指導)
9. 骨と筋と神経の総復習	10. 指導管理③(固定に対する指導)	10. 骨と筋と神経の総復習	10. 指導管理③(固定に対する指導)
10. 骨と筋と神経の総復習	11. 指導管理④(後療法に対する指導)		11. 指導管理④(後療法に対する指導)
	12. 指導管理⑤(体操・運動療法に対する指導)		12. 指導管理⑤(体操・運動療法に対する指導)
	13. 指導管理⑥(日常生活動作の指導)		13. 指導管理⑥(日常生活動作の指導)
	14. 障害のレベルとアプローチ		14. 障害のレベルとアプローチ
	15. 試験の練習		15. 試験の練習
	16. まとめ		16. まとめ
	17. 国家試験問題解説①		17. 国家試験問題解説①
	18. 国家試験問題解説②		18. 国家試験問題解説②
			19. 国家試験問題解説①
			20. 国家試験問題解説②
【テキスト】			
テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。			
【成績評価方法】			
所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験において評価を行う。			
【授業実施上の留意点】			
教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。			

## 講義要綱

【授業科目名】臨床実習		【分野】専門分野		【学年】3年	【学期】前期
【学科】柔道整復科	【講師名】 片桐秀樹	【授業コマ数】23	【授業時間数】45	【単位数】1	
【一般目標:GIO】 実際の治療の場で見学・実習をすることにより、柔道整復師としての態度・知識・技術を習得する。					
【行動目標・到達目標:SBOs】 臨床見学と体験実習を通じて、医療従事者としての態度、実務技能を身に付ける。					
【 教 育 内 容 】					
< 前 期 >					
1. ガイダンス 2. 受付業務、患者対応 3. 各疾患に対する物理療法① 4. 各疾患に対する物理療法② 5. 各疾患に対する運動療法① 6. 各疾患に対する運動療法② 7. 膝部の疾患に対する評価と施術① 8. 膝部の疾患に対する評価と施術② 9. 橈骨遠位端部骨折に対する評価と施術① 10. 橈骨遠位端部骨折に対する評価と施術② 11. 肩関節脱臼に対する評価と施術① 12. 肩関節脱臼に対する評価と施術② 13. 足部疾患に対する評価と施術① 14. 足部疾患に対する評価と施術② 15. 模擬患者に対する施術ロールプレイング			16. 模擬患者に対する施術ロールプレイング 17. 模擬患者に対する施術ロールプレイング 18. 模擬患者に対する施術ロールプレイング 19. 模擬患者に対する施術ロールプレイング 20. 模擬患者に対する施術ロールプレイング 21. 模擬患者に対する施術ロールプレイング 22. 試験と練習 23. まとめ		
【テキスト】 テキスト:「柔道整復学理論編」、「柔道整復学実技編」、「包帯固定学」 ほか、必要に応じてプリントを使用する。					
【成績評価方法】 所定の出席時間を満たした者に対し、実技試験・レポートなどで評価を行う。					
【授業実施上の留意点】 教科書を基本としたプリントをそのつど配布し授業を進める。					